

# 「総ぐるみ」新聞

おかげさまで大好評でした。

## 「講演会とハンドベル演奏会」

### 十一月十二日、西洗・港南・プラザ自治会館で開催

NPO総ぐるみ福祉の会は、去る十一月十二日（土）、西洗・港南・プラザ自治会館で「これからの介護保険がどう変わるか」をテーマとした講演会を開きました。

#### 利用者の立場に立った 介護保険の専門家を呼ぶ

本紙でもたびたびお知らせしたように来年四月から介護保険が大きく変わります。この日の講師、NGOケアラーズ代表の大蘆庵漢（おおあし・あんかん）氏は、NPO総ぐるみの会が行っている訪問介護サービスの大きな変化として「利用者のお宅を訪問し、掃除や調理などを行う『生活援助』というサービスを提供することが難しくなる」と指摘し、「利用者の皆さんは、そうしたサービスを自費で負担しなければならなくなるでしょう」と予想します。

大蘆さんは、利用者の立場に立った介護

保険事業所育成のボランティア活動に取り組むNGO（民間公益団体）の主宰者。「介護の現場を重視する」専門家として大蘆さんの発言は定評のあるところですが、当日の講演会に参加の皆さんは約四十名、身近なテーマだけに、質疑応答も熱心に交わされ、「大蘆さんの指摘で、新介護保険法が目指す地域密着型サービスの主役に、NPOが期待されていることを知りました」との感想が聞かれました。

ひと足早くハンドベルで  
クリスマスソング演奏会

#### ひと足早くハンドベルで クリスマスソング演奏会

講演に続いて行われたのは、「アルテミス」の皆さんによるハンドベルの演奏会。アルテミスは、自分たちの曲作り・音創りを追求したいという想いから結成されたイングリッシュ・ハンドベル・クワイアで、横浜市を中心に活動しています。

この日、出演してもらったのは、吉川す

NPO総ぐるみ福祉の会・事務所は日限山4・44・23の宮崎宅です。入会や活動については、宮崎浩子（TEL84447477）、大橋綾子（TEL82332363）、菅沼永子（TEL8449193）、米川満寿子（TEL8419433）、菊地幸子（TEL8414862）に。「日限山荘」でも受け付けています。

み代表ほか女性だけのメンバー七名。ハンドベルは、イギリスの教会音楽に取り入れられたのが始まりというだけあって、会場には一足早いクリスマスソングの響きが流れましたが、その澄んだ音色は、「赤とんぼ」など懐かしい日本の旋律にすっかりマッチ。晩秋の午後、「天使の歌声」と呼ばれるハンドベルが奏でる優美な音楽とともに、会場には心和やかな時間がゆっくりと過ぎていきました。

#### 来春一月、講演会を2回開催

当会では、次回の講演会を、来春1月11日（水）と25日（水）に開催します。

11日のテーマは「認知症の話」。講師は十慈堂病院理事長で日本神経学会・認定医の佐久昭先生、25日のテーマと講師は未定ですが、新介護保険の展望と対策を予定。

両日とも、場所は日限山小学校内の「日限山コミュニティハウス」、時間はいずれも午後2時から午後4時半まで。十一月の講演会と同じく演奏会などのアトラクションも企画中。

詳細が決まり次第、チラシなどでお知らせします。ふるってご参加下さい。

## 死の作法 増澤喜一郎

日本人の微笑は、念入りに仕上げられ、長年にわたって育まれた作法だという。それはまた沈黙の言語でもある。その言語を遺しながら逝く。それが理想の「死の作法」のような気がするが…。

### 心の準備はできていますか？

八年前のことである。大先輩、七班のM氏が入院されたので見舞いに行った。

帰り際に、「増澤さんいくつになった」

「七十五歳になったところなので、皆様から見ればガキのはしくれですよ」

「そうか、でも、そろそろ心の準備をしたほうがよいよ。俺はちよつと遅すぎた」

と、しんみりいわれた。暗い部屋の灯が妙に気にかかった。M氏は一週間後に亡くなった。氏の言葉の意味が気にかかる。世界一長寿国となった日本、死に方を忘れてしまったのであろうか？

——旦那、全くとんでもない事をしでかしまつて、迷惑をかけ、もう覚悟は出来ていますから、と嘉助はいう。——

このような文章で始まる森鷗外の『高瀬舟』の大意は、およそ次のようなものであったと思う。

嘉助には長らく労咳（結核）を患う弟がいた。弟は、これ以上生きていても兄に心配をかけるばかりと、兄のいない間に剃刀を首に当てて自殺を図る。それを見つけて部屋に飛び込んだ兄に向かって、弟は、「兄さんに厄介になるばかり、早く死にたいから、ひと思いに首を切り捨ててくれ」という。

弟想いの嘉助は、どうせ助からぬ弟、楽にしてやろうと殺す。それが幕府に知れて御用となり、「弟殺し」の罪で、高瀬舟に乗せられ、同心同行のもと、大阪へ送られて行く。

嘉助の話聞いていた同心は、嘉助の受けた「言い渡し」が正しいのか、合点がいかなくなる。

### 平常心では見られない死の苦しみ

実は私も、この嘉助と同じような煩悶に煩悶を重ねた経験がある。

四十二年前、私が四十歳の時、母が胃ガンに冒された。大病院で手術したが、再発し苦しんで死んだ。それは、それは肉親では見ていられない状態で、床擦れはひどくなり、「苦しい、苦しい」という母を、どのように看病したらよいのかわからない。

いまのようなホスピスのない時代だ。身体をさすつてやるのが精一杯。思い余って「楽にさせてやりたい」と担当医に頼み込んだこともある。

結局、看病の甲斐もなく、母は息を引き取った。最期は、鬼のようだった顔が人の顔になり、幸いにも微笑さえ浮かべて静かに逝った。

急に寂しくなった。傍らにいる妻は、長女を身ごもっていた。

### サンダルヘルパーを志した真の理由

この頃、しきりに母のことを思い出す。歳を重ねるうちに、母が最後に浮かべた微笑の意味がわかるようになった。母は、長男から精一杯の看病を受けたことを感謝してくれたのに違いない。

ここにこそ、介護の真の意味がある。人は精一杯の看病を受けたことを永久に忘れない。三年前、「NPO総ぐるみ福祉の会」の設立を発想したひとつの

理由がそれである。ご近所の誰でもよい。身近なサンダルヘルパーとして、ご町内の誰かのお世話や介護が出来れば、それが微笑となって、私自身にも還ってくるのではないか。最澄いわく「貧者の一灯、一隅を照らす」と。

### いま、緩和ケアベッドの上で思うこと

今、私は緩和ケアベッドの上に寝ている。「緩和ケア」とは「痛みなどの苦痛を取り除いて死を迎える介護」といったらよいであろう。

先日、六年生の孫娘が、母親の買い物についてきて、私のベッドをのぞき、耳の近くで「おじいちゃん、死ぬの？」と聞いた。

「ああ、十二月の終わり頃な」

彼女は「本に出てたけど、「あの世」は花が咲いていて暖かいそうだよ」と、私の顔をマジマジ見ながらいった。

空海は「母胎より出でて、母胎に還る」という。果たして、自分は、微笑を浮かべて母胎に還れるのであろうか？

（横浜日赤緩和ベッド201号室の病床で記す）

## 強力マスクはいかが！

### ——話題の商品——

今年もインフルエンザウイルスが流行する時期になりました。インフルエンザウイルスと免疫反応を起こし、感染力を失わせる「バイオ交代フィルター」を利用した優れたもののマスクが新聞紙上に紹介されていました。【ナノブロック】(7枚入り税込み¥1,365円・資生堂より発売予定)がそれ。「うつし」「うつされ」ないために、いかがでしょうか。